

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築[簡易版]2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	亀岡市立川東小学校・高田中学校	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	410 人
気候区分		年間使用時間	1,700 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2013年4月11日
敷地面積	28,071 m ²	作成者	桑村 佳直
建築面積	7,565 m ²	確認日	2013年4月11日
延床面積	7,372 m ²	確認者	高梨 俊寛



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 91%

③上記+②以外のオンサイト手法 87%

④上記+オフサイト手法 87%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>①賢く長く使う ②やさしくつくる ③学習に資する ④地域の資産を守る</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>・児童・生徒が健康的に活動するために必要な室内環境を形成し、活動に応じてコントロールできるようにする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・児童・生徒がのびのびと使える機能性と、自分選できれいに使える清掃しやすい施設とする。 ・長寿命化を図るため、高耐久材料の使用を促進し、保守・更新を容易にする。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・開放性は高めつつも、熱負荷は抑えるよう努める。 ・自然通風、自然採光に優れた施設とする。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・雨水利用を行う。 ・リサイクル材の使用を促進する。 ・地域産木材の使用を促進する。 ・有害物質を含まない材料を使用する。</p>
	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>・ふるさと川東の伝統的なまちなみ景観に調和し、今後の景観行政のモデルプロジェクトとする。 ・「地域ぐるみ教育」の拠点として、地域活動にも供する施設を整備する。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・豊かな外構空間を土のまま、あるいは浸水性の高い舗装で整備し、ヒートアイランド化を抑制するとともに、地域の水利環境を保全する。 ・2階建てまでの低層建物とし周辺環境を阻害しないようにする。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい